

NO. \_\_\_\_\_  
令和 年 月 日  
午 時 分受領

令和 元年 6月12日

丹波篠山市議会議長 様

会派名 一以・維新

氏名 渡辺 拓道 印

## 一般質問通告書

<input type="checkbox"/> 種類	<input checked="" type="checkbox"/> 代表質問 ・ <input type="checkbox"/> 個人質問
<input type="checkbox"/> 方式	<input type="checkbox"/> 一括方式 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	市名変更を活かした地方創生の推進について
指定答弁者	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長
<b>【質問の要旨】</b> ちょうど一年前、会派一以・維新は、75歳人口が急増によりもたらされる社会変化を「2020年問題」と名付けて、その対策が焦眉の急であると警鐘を鳴らしました。特に、2020年問題により低下が見込まれる社会活力の維持対策は最重要であり、定住人口の維持増加と交流人口の拡大を急がなければなりません。このため、当時議論されていた市名変更の是非については、私たちは定住や交流人口増加にプラスになるとして積極的に賛成してまいりました。 令和初日の5月1日、市役所の皆さんには市制20周年と市名変更の式典を滞りなく開催していただき、多くの市民の皆さんには記念の催しを盛大なものにさせていただきました。また、市外からも市名の変更は好意的に受け止められたようで安心しました。市名変更事務にあたられました市職員の皆様、市民の一人一人に敬意を表しますとともに感謝申し上げます。  さて、先日の水無月会議初日に酒井市長の丹波篠山市初年度の施政方針が表明されました。施政方針は個別事業を丁寧に説明されたもので分かりやすいものでした。しかし、その反面で令和元年度市政の背骨が見えづらいものでもありました。	

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること

このため、令和元年度、丹波篠山市元年度の市政が 2020 年問題へ備える方向に向いているのか、そしてそれもスピード感をもって進んでいくのかについて質問します。

まず、施政方針で残念だった点を 2 点あげます。一点目は、まちの活力を維持して 2020 年問題対策にも具体的に資する「地方創生」についての言及がなかったこと、二点目は、5 月 1 日の式典・イベントに続く市名変更を活かした第 2 弾の具体的なまちづくり策が示されなかったことです。

いまさらですが、地方創生とはまちに仕事をつくって定住人口を維持増加させることです。この点について丹波篠山市政は今年度どのように取り組むのか、その骨格の説明をお願いします。また、目玉施策である駅ラボと地域ラボについての今年度の成果目標を共有させてください。(働く環境の改善については吉田知代議員より提案があります。)

市名変更を活かしたまちづくり策の骨格については、本来は式典時に発表すべ気だったと思いますが、遅くとも今回の施政方針の中で示されるものと理解していました。ところが、「これからブランド戦略を考えます」との一言で戦略づくり手法への言及もありません。これでは、時期を逸してしまうのと同時に、迫りくる課題への備えもできません。

官民一体となった戦略については、今から慌ててつくることは困難でしょうし、コンセンサスを得ない戦略は展開できませんので無理に回答を求めることはしません。是非秋を目途にスピード感をもってまとめ上げてください。

一方で、行政単独の取り組みは今すぐにも始められます。市名変更の話題性がまだ残っているうちに第 2 弾の市名変更を活かしたまちづくり策を展開すべきです。

何をしなければならぬか説明し、具体的な第 2 策を提案します。

まず、最優先のまちづくり課題は定住・交流人口の増加です。となると、売るのは物産でなく「まち」です。丹波篠山市は一般の地方都市と比較して定住や交流条件でそんな色はないですが、飛びぬけて勝ったところもできていないのが現状です。すなわち、多くの定住・交流先としての選択肢の中の一つでしかありません。この時、多くの選択肢の中から一つを選んでもらうには「動機付け」が重要になります。キャッチコピーやキャッチフレーズなどの言葉も有意な動機付けになり、さらに画像や映像さらには音楽が加わると効果的になります。

(施政方針中に新しい観光キャッチフレーズへの言及がありますが、提案は自治体そのものに係るフレーズです。)

言葉、メッセージはまちの自慢でもいいのですが、定住や交流の動機付けが目的ですので「みんな(第 3 者)が丹波篠山を選んでいるよ」と伝わり、私も選んでみよう、行ってみようとの気持ちになるものが効果的と考えます。

**※質問の要旨は、具体的に記載すること**

**※代表質問の場合は、会派名を記載すること**

**※極力、全文原稿を添付すること**

さらに具体的な検討を行うと、この条件に合う言葉には「やっぱり丹波篠山」「だから丹波篠山」などが合致しますが、より多様な人々にメッセージを届けるなら既成の価値観を再認識する「やっぱり丹波篠山」よりも、ニッチな価値観をも包括する「だから丹波篠山」の方が好ましいでしょう。

使用の例をいくつか挙げると、

- 夢が叶う、**だから丹波篠山** (起業施策などで使用)
- 人の優しさと暮らす、**だから丹波篠山** (定住)
- 野菜のある暮らし、**だから丹波篠山** (定住・家庭菜園、通勤)
- (子どもが) のびのび育つ、**だから丹波篠山** (子育て・定住)
- 懐かしい風景に出会う、**だから丹波篠山** (田舎体験・まち歩き・癒し)
- 本物の美味しいを知る、**だから丹波篠山** (農・食・観光)
- 伝統を学ぶ、**だから丹波篠山** (伝統工芸・体験)
- 世界の果てまで踊る、**だから丹波篠山** (デカンショ祭り)
- 光秀を感じる、**だから丹波篠山** (大河観光)

今は、途切れなく市名変更を活かしたまちづくりを進める時期です。まずは、「だから丹波篠山」のようなキャッチフレーズを第2弾として市の進める定住・交流施策に統一的に使っていき、その間に官民力を合わせて取り組むブランド戦略をつくりあげてほしいと考えます。市長の見解を伺います。

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること